

< 調査区 A の出土品 >



「則武 日陶」落款入碗



「商工課 2」墨書入り火鉢



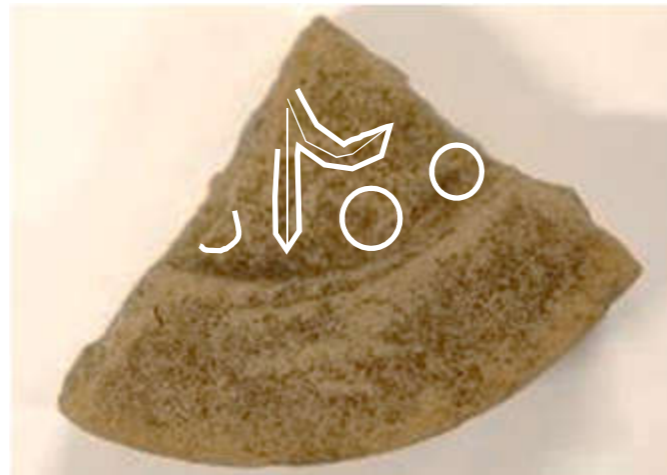
「亀山製」銘入り蓋



「元 特許 城島宮原製」刻印入り瓦（城島瓦）



「三石耐火」刻印入り耐火レンガ



花十字文瓦（紋様位置を白線で示す）

花びらを模した十字文の模様が入った軒丸瓦で、17世紀初頭のものと考えられます。

なお、教会堂やキリスト教関係施設などに、葺かれていたものと考えられる瓦ですが、埋土から出土したため外から持ち込まれた可能性もあることから、教会があったかどうか、遺跡の内容や性格を決定づけることは難しいです。



染付雪輪草花文丸形碗

調査区 B（町屋跡）

< 目的 >

令和元年度の範囲確認調査において町屋の跡を確認したため、町屋部分の内容を確認することを目的として調査をしています。

< 調査状況 >

現在、近代から現代の地層を重機で取り除いた後、江戸時代の地層を検出するために人力で作業を行っているところです。

調査区 C（スロープ）

旧県庁舎の南門から敷地に通じるスロープの左側の石垣を検出しています。



調査区 B（町屋跡）の調査の様子

令和 2 年度旧県庁舎跡地内容確認調査
現地説明会案内図



令和 2 年 9 月 1 2 日（土）10：30～14：30（開放時間は自由に見学可）

調査担当者説明 1 回目：11：00～ 2 回目：13：30～

- 太線部 見学者の動線になります。
- 点線部 未舗装の斜路のため現場の状況次第では見学できないことがありますので御承知おきください。

1. 遺跡の概要

遺跡名：長崎西役所跡

種別：その他の遺跡（役所跡）

時代：近世

2. 令和2年度旧県庁舎跡地内容確認調査の概要

調査期間：令和2年5月19日～

10月30日（予定）

調査面積：1,296㎡

3. 発掘調査の状況(令和2年9月11日時点)

調査区A（石垣）

<目的>

令和元年度の範囲確認調査において石垣の一部を確認したため、その調査成果を基に、石垣の残存状況及び石垣下部分の内容を確認することを目的として調査をしています。

<調査状況>

石垣の部分については、長さ約60m、高さ約6～7mの石垣を検出し、補修や積み替えが繰り返し行われた状況が確認できます。

更に、石垣の根石部分について、その石垣の積み方から、1610年代に積まれた可能性が高いとの専門家の見解をいただいています。

また、出土品には、近代から現代にかけて製作された陶磁器、瓦片、ガラス製品、金属製品、レンガ片があり、併せて、4代目県庁舎建設の際の盛土中から花十字文瓦が1点見つかっています。

石垣下部分については、現在調査中で、江戸時代から近代の陶磁器が確認されています。



<石垣の根石検出状況>
横のラインが水平になっていることから、1610年代に積まれた一番古い石垣と考えられています。



<石垣の遠景>